

傷の治し方 広報げろ 2011.9

傷の治し方

切り傷や擦り傷を負って病院へ来るとまず看護師さんが水道の蛇口の所へ連れて行き流水で傷を洗う。これが現在の傷に対して行う最初の処置です。

◎傷を治すのは自分の力

指の先を切断したり指の先がつぶれてしまったようなとき、以前はつぶれた部分を切除し指の断端の形成術を行っていました。現在はできる限りつぶれた部分も残し、よく水で洗ってからアルミホイルかラップで包んで様子を見ます。1日から4日ほどに一回水洗を繰り返しながら経過をみるとつぶれた指の先端は肉が再生し骨を覆い皮膚も再生して一、二か月で指の形を取り戻します。爪の根元が残っていれば爪もまた伸びてきます（骨は伸びません）。ラップで包んで傷を乾かさないようにし、消毒をしないで細胞の再生を促し、しみだしてきた体液で細菌が増えないように時々水で洗い流す。これを繰り返すだけで傷が治るのです。

◎傷は乾かさない

以前は傷口は乾燥させなければといわれていました。しかし、傷を乾燥させるとせっかく再生するために頑張っている細胞が死んでしまって細胞を再生させたり細菌の繁殖を防ぐ免疫機能も力を発揮できません。傷口を乾いたガーゼで覆うとかさぶたができ、それをはがすときとても痛いしまた出血もします。濡れた環境が傷口が治るために必要であることは口の中の傷が早く治ることからも理解できると思います。

◎傷は消毒しない（消毒液を使わない）

消毒が必要ないことは口の中には細菌がいっぱいいるのに傷が治っていくこと、お腹の中で胃や腸を切除しそれをつなぐ手術をしても消毒しないことからわかるでしょう。皮膚は消毒しても毛穴などにいる細菌までなくすることはできません。さらに消毒液は再生しようとしている細胞も殺してしまいます。

◎傷の応急処置はまず十分な水で洗浄

傷の応急処置に必要なものは洗浄用の充分量の水道水などの飲用可能な水と料理用ラップ、ラップを固定するテープだけです。マーキュロ、オキシドール、ヨーチンなどの消毒液は必要ありません。金山町の水道水をよく洗浄した容器に入れ1年間倉庫に保存し試飲しましたが十分に飲用に耐えるものでした。応急処置用に水道水をペットボトルに入れて持っていくとよいでしょう。

◎早期に病院にかかる必要がある傷

出血が止まらない傷、縫い合わせなければならないような傷、深い刺し傷、動物による傷、破傷風予防が必要な汚い傷などはラップ処置の対象にはなりません。水で十分に洗浄した後、できるだけ早く病院に受診してください。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦